（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2374500607		
法人名	株式会社　ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家　尾張旭　（燦々）		
所在地	尾張旭市庄中町２丁目４番地８		
自己評価作成日	令和２年８月５日	評価結果市町村受理日	令和2年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2374500607-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和2年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

できることをしていただき、一緒に作業を行うなど活動ができている。
それぞれが自由に生活できる環境づくりをしている。
入居者の要介護度が高くなるに伴い、出来ることは少なくなっているが、日々の生活の中で本人の出来る事やわかることを考えて、ひとつひとつ支援につなげている。
自由に外出できるわけではないが、玄関を施錠せず、リビングも掃き出しの窓になっていることから、洗濯物を取り込んだりする日常的な外に出ることは出来ている。
地域の中での暮らしを行うことで、地域の人たちに介護施設を身近に感じてもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホーム内は広い空間が確保されてあり、利用者がリビング以外に設置されているベンチで過ごす等、毎日の生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつくられている。ホームの出入り口も日中の時間は施錠を行わずに開放的な雰囲気がつくられてあり、利用者が職員に見守られながら自由に出入りしながら外に出て、洗濯物を干したり取り込んだり、毎日の生活が前向きなものになるような支援が行われている。利用者の外出行事についても様々な場所に出かける取り組みが行われているが、市外に開設している関連事業所とも連携しながら温泉施設に出かける取り組みも行われており、利用者の楽しみにもつながっている。また、ホームの災害対策に関する新たな取り組みとして、ホーム内に非常用の発電機を設置したことで、長時間の停電等、様々な災害を想定した対応が行われている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果　（燦々）

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	介護理念、事業所理念、今年の目標を事務所内に掲示し、毎月のミーティング、カンファレンス時にスタッフ間で共有（唱和）している。	運営法人の基本理念を支援の基本に考えながら当ホーム独自の理念がつくられており、理念を事務室内への掲示が行われている。また、毎月の職員会議の際には、職員間で理念を唱和する時間をつくり、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩、買い物へ出かけており、挨拶をしている。挨拶をしてもらえる。小学校区の行事やイベントには積極的に参加している。 ご家族や、近所の方から野菜や果物を頂く。 町内会に加入し、行事の案内をもらう。 ※2月末以降はコロナの影響で活動自粛中	ホームは地域の町内会に入り、回覧板等を通じて地域に関する情報を得るように取り組んでいる。現状、地域の方との交流は限られた範囲となっているが、近隣の方と情報交換を行う取り組みやボランティアの方を通じた交流の機会がつくられている。	地域の方との交流の機会が限られた範囲でもあるため、地域の方との交流が増えるように、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	子供110番の家に登録 スクールガードの登録 地域の中で生活することで、暮らしぶりを日常的にみてもらえる。 地域貢献については模索中 ※2月末以降はコロナの影響で活動自粛中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通じて、家族の面識が高まっている。 実地指導の報告など、市の担当者から行ってもらっている。	毎回の会議の際には、市担当部署の職員の出席が得られていることで、会議を通じて、ホームの運営に関する情報交換等にもつながっている。また、複数の家族の参加も得られており、家族との交流やホームの現状を知ってもらう機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告書の提出。運営についての疑問点などは随時確認している。 情報共有できる場や機会への積極的な参加をしている。	市内の介護事業所が集まる連絡会の際にホームからも参加する機会をつくっており、市担当部署との定期的な情報交換の機会につなげている。また、地域包括支援センターとの情報交換や市の介護相談員の訪問も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティングで身体拘束委員会を開催して、身体拘束の有無、また拘束に繋がっていないか話し合いをしている。 勉強会は年に一度実施している。 必要に応じて、入居者が臥床してからのこまめな訪室を行い事故防止に努めている。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内は日常的に開放的な雰囲気がつくられていることで、職員間で利用者の見守りを行う取り組みが行われている。また、毎月の職員会議を通じた、身体拘束に関する検討や定期的な職員研修が行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	適宜研修を受け、職員相互の注意喚起を行っている。 勉強会は年に一度実施している。 スタッフ間で注意を心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については年に一度の勉強会の実施をしている。活用している利用者がいるため対応した結果を職員にも必要分報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には家族の疑問等に相談に乗るようにしているが、入居を急ぐケースの場合は後手になることもある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見などは、上司に報告を行い次回の面会時などに返事をする。希望を伺うなどしている。 玄関に意見ボックスを設置しているが、近年使われることはなく、家族から直接意見を頂くことが多い。 日常的にご家族からの希望や意見は伺うことができている。	ホームで行われている行事の際には家族にも案内を行っており、家族との交流の機会をつくっている。当ホーム管理者が運営法人の幹部職員でもあることで、利用者、家族からの要望等に柔軟に対応する体制がつくられている。また、毎月のホーム便りの発行の他にも、ブログの更新も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	利用者の細かいところに気づけるように、意見交換を行えるようにしていきたい。 会議、ミーティングを通しての意見の徴集。 会議に意見を伝えている。スタッフ間で相談しホーム長に伝えている。	毎月の職員会議や日常的な情報交換を通じて、管理者が把握した職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員との面談の機会もつくりながら、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員同士助け合うことができるように努めている。 毎年の昇給、処遇改善加算など職員への還元もできている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に数回職員と面談し、個々の目標設置などを一緒にしている。 研修での学びを、働きながらつかんでいくことができる。 キャリアパス制度に準じて研修への参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修参加の機会を増やした。 地域の事業所との研修交流会などを行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には、関係者の意見を聞きながら支援の大筋を決めるが、入居数日の職員との関わりの中で必要な支援を明らかにしていくようにしている。本人が生活に慣れるまでは適度なコミュニケーションを持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時には「家族向けセンター方式」の用紙を用い、家族の意向を確認している。 家族によっては記入をしない方もいるため、面会の際などに話を伺うようにしている。家族からの困っていることなどもうかがうようにし、報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人にとって必要な支援を考え、可能な限り対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の「やろう」と思う気持ちが引き出せるように働きかけている。 本人のやる気を引き出せるように努めたいと思っている。 苦手なことなども把握してできることを増やせるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の立場、関係性を考慮したうえで、その入居者に必要な関わり支援を一緒に出来ていると思う。 面会時に外出してくださる家族もいる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時に家族との交流がある。 友人が面会にみえる人もいる。 面会に来られた方への情報提供や交換を行っている。日頃の会話の中に今までの生活についての話題を出している。 ※2月末以降はコロナの影響で活動自粛中	利用者の中には、入居前からの関係の方との交流を継続している方も生活しており、知人、友人がホームに訪問する機会にもつながっている。家族の協力も得ながら、行きつけの喫茶店等に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	同じ空間で暮らす中で好き嫌いはあっても、共助の関係を保ち暮らしていると感じる。 スタッフが間に入るなどトラブルを避けている。 支援の結果ではなく、一人一人の生きる力がしていると感じている。 入居者同士話をしている姿をよく見る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も相談を受けたり、足を運んでくださるご家族も少なくない。 退居後にも年賀状などが送られてくる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の話を傾聴しそこから情報収集、職員同士の共有につなげている。 変化や言動把握し、申し送り会議で検討している。	職員全員で利用者の意向等を把握する取り組みが行われている。また、ユニット毎に毎月のカンファレンスを行う時間を設けており、職員による利用者に関する意向や気付き等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活史を把握の範囲内で記載している。 入居時に家族に「家族向けセンター方式」の用紙への記入をお願いしている。 入居後も話を聞く機会があった場合には追記をして共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人に会った暮らしの支援が出来るように、表情、言動、様々な情報から把握に努めている。 変化があれば報告し、ミーティングで検討をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画やモニタリングについて家族などへの説明をして了承いただいている。	介護計画については、3か月での見直しを行い、利用者の状態変化等に合わせた柔軟な対応が行われている。日常的にも、介護計画に関する記録を青字で記載する工夫を行いながら、日常的に変化等を把握し、定期的なモニタリングの実施につなげている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を色分けしていたが、近日は色分けて記入されないこともある。 いつもと変化があるときには色を変えて記入をしている。 ヒヤリハッとの記入や申し送りの活用		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	サービスの運用方法や個々の対応で本人・家族にあったサービスになるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	住所地や、施設所在地の地域資源を活用し、満足された結果、長期間の入居生活ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医によく把握をしてもらっている、本人、家族の希望を入れ、適切な受診方法で適切な医療が受けられ、治療が続けられるよう支援している。 入居時にかかりつけ医の選択をする。 往診も含め、適切な時に適切な医療を受けられている。	ホームでは、複数の医療機関と連携が行われており、利用者の健康面に合わせた柔軟な支援が行われている。利用者の中には、今までのかかりつけ医を継続しており、家族による受診とホームからの情報提供が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内に看護職は配置していない。 往診の際などに相談に乗ることもでき、心配事などは聞くことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては、退院時の受け入れなどの伝達がうまくいかないことがあった、 入院時には安心して治療を受けられるように情報提供を行い、退院時には病院関係者からサマリーを受け取るなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	急変時には適切に受診やその援助を行っている。 入居時に家族の意向確認を行う。 入居後も、身体状況の変化に合わせ家族との話し合いの機会を持ち、対応に取り組んでいる。 重症化した場合は家族との連絡を密に取っている。	利用者の中には、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、職員間で支援内容の検討を行いながら、可能な限りの支援が行われている。現状は、医療面での支援体制もあり、ホームでの看取り支援は難しいことを家族に説明している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時は状態確認を行い、必要力所に報告をするということで周知されている。 マニュアルがあり、時々目を通しているが、状態確認をしてホーム長に報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練後にはミーティングで今後に向けての話し合いを行っている。 災害時の避難訓練は実施しているが、職員全員が対応できるかというと難しい部分がある。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われており、職員間の連携に取り組んでいる。また、ホームでは水や食料の備蓄品の他にも、新たに非常用の発電機の設置を行い、様々な災害を想定した対応が行われている。	ホーム内に発電機を設置する等、災害対策に関する新たな取り組みも行っている。ホームの継続した取り組みが、利用者の安全確保や近隣の方との協力関係につながることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室のものの配置など扉の開閉まで本人の好みや主張を大切にしている。 人生の先輩として尊敬をもって接している。 敬語ではあまり話ができておらず、出来る限り失礼の内容に話をしている。	利用者一人ひとりが、理念にも掲げている、その人らしく生活を継続することができるように、職員による言葉遣いや利用者を尊重した対応を意識するように、管理者からも働きかけや注意喚起が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	小さな選択を日常的に働きかけている。 本人の意思が伝達できなかったりする場合には本人の想いをくみ取って言葉がけしている。本人からの表出しやすい問いかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各入居者マイペースに過ごしている。 職員が自分勝手に決めないで、本人たちに併せて支援できるようにしている。 職員の都合になっていることも多いが、希望に沿った支援を行うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の希望を聞いたり、必要に応じて一緒に買い物に出かけることを実施している。 2か月に1回は訪問美容を受け、毛染めをされる方もいる。 1～3日に1回の入浴をしている。服装も気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物、献立を決めることなどから一緒に行うことで食事を意識した生活を支援している。 メニューや味付けなど変化に富む食事になるよう工夫している。 ※2月末以降はコロナの影響で買物自粛中	ホームでは、食事のメニューをその日に考えており、利用者の希望や好み等に合わせた対応も行われている。利用者もできることに参加する取り組みが行われている。また、テイクアウトを活用した食事や身体状態に合わせた食事形態の配慮も行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重測定を2回／月実施。 水分摂取量の確認を行っている。 水分量が少ないと思うときはお茶を提供している。飲みやすい飲料を購入している方もいる。 食欲が低下している場合には本人が食べられそうなものを購入し提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは、起床時、毎食後に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	本人の排せつパターンを把握して援助している。 時間を決めて誘導する人でも、状況に応じて早めにするなど対応をしている。本人にとって何が一番良いかを職員と、時に本人と話す。紙パンツの利用を希望される場合はしてもらい、清潔の保持にも努めている。 職員同士相談したり、ミーティングの場で意見を出しおむつの使用を減らすなど必要に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりに合わせた排泄記録を残し、日常的な申し送り等も活用しながら、トイレでの排泄が継続できるような支援が行われている。利用者の中には、身体状態を把握しながらオムツからパンツに移行する等、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取、野菜の多い献立をしているが便秘の方は多く、下剤を内服される方も非常に多い。 水分を多くとっていただいたり、運動をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	職員のタイミングで声をかけているが、本人の気持ちや意向も尊重している。全員ではないがその人が嫌な思いをしないようにタイミングを計っている。 1回／二日の入浴をしている。 菖蒲湯、ゆず湯など介護施設定番だが行っている。	ホームでは、毎日の入浴の準備が行われていることで、利用者の希望に合わせた入浴の回数や入浴を拒んだ場合等、利用者に合わせた柔軟な対応が行われている。また、関連事業所とも連携しながら市外の温泉施設に出かける取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日常的に、横になったりソファでウトウトしたり。 夜間の不眠がない限りは自由に過ごしている。 日中の日光浴なども心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師、医師ともに何かあった場合には相談をしている。 また、薬の変化は必ず職員に周知している。 処方箋を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	歌を歌ったり、ご飯の支度をしながら話をしている。 歌、塗り絵、調理、外の仕事など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	喫茶店や買い物に出かけている。 「お出かけ」だけでなく、戸外の様子がわかるよう声をかけたり、「閉じこもっていない」雰囲気になるような関わりをしている。 ※2月末以降はコロナの影響で活動自粛中	利用者が日常的にホームの外に出ることができるように、ホームほ開放的な雰囲気がつくられている。年間を通じた外出行事が行われており、職員間で外出先を検討したり、関連事業所とも協力関係をつくりながら、利用者の外出の機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を個人でしている入居者がいない。 お小遣いを預かり、施設で支払いをすることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方の子供さんから贈り物は届くと、受け取った際の写真と本人からのお礼の手紙を添える支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設全体、車いす2台が通れる広さになっている。 衛生的で匂いも感じない。 互いの関係性の中で、空間を共有し生活している。 ひとりにとっていいものが他の誰かにとっていいものでないことも多くあり、職員が介入しながら生活してもらっている。 大きな音を立てないように気を付けている。	ホーム内は広めの空間がつくられていることで、通路にベンチを設置する等、利用者が毎日の生活をリビング以外の場所でも過ごすことができるような配慮が行われている。また、利用者の居室の前の壁面には、一人ひとりに合わせた写真の掲示を行い、利用者の暮らしぶりを伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	施設内にリビング、居室以外にも椅子が設置してあり、それぞれがすごしやすい場所で自由に過ごしている。 折々にくつろげる場所が用意されていて自由に使える。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使いやすい物を使用し、本人の使い慣れたものがあればご家族に相談し、もってきてもらっている。 本人に必要なものは都度報告している。 本人が整理整頓できないものもある。	居室には、利用者が入居前から使い慣れた家具類の持ち込みが行われている他にも、趣味の物等も持ち込まれてあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、クローゼットが設置されていることで、居室を広く活用できる利点もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全な自立はとても難しいが。 一人一人がやりたいと思う瞬間を損なうことがないように関わり支援している。		